

〈大阪府立〉大学創基 140 年事業 趣意書

大阪府下にある高等教育機関の多くは、明治期に設置された旧制専門学校等に、その淵源を求めることができます。とりわけ、大阪府によって設立された各種学校は、地域社会や産業界を牽引する存在として大きな役割を果たし、戦後は新制大学として、新たに出発することとなりました。大阪府立大学は、そのような歴史を背景にして、1949（昭和 24）年設置の「浪速大学」（1955（昭和 30）年に「大阪府立大学」と改称）と「大阪女子大学」、1994（平成 6）年設置の「大阪府立看護大学」の三大学の統合と再編、法人化によって、2005（平成 17）年に発足した大学です。

浪速大学には、1883（明治 16）年設置の獣医学講習所や 1939（昭和 14）年設置の（官立）大阪高等工業学校が、大阪女子大学には 1924（大正 13）年設置の大阪府女子専門学校が、そして大阪府立看護大学には、1937（昭和 12）年設置の大阪府立社会衛生院というように、前身機関からの流れがそれぞれ受け継がれています。また、1950（昭和 25）年設置の大阪社会事業短期大学や、1959（昭和 34）年設置の大阪府立放射線中央研究所も、大阪府立大学の歴史へと繋がっていくことになります。

このように、大阪府立大学は、さまざまな高等教育機関の「多様」と「融合」をもとに成立した「高度研究型大学」として、優れた才能の育成や研究成果の発信と社会への還元等において、大阪府のさまざまな取り組みに対して重要な一翼を担うとともに、学術研究と高等教育の発展に深く寄与してきました。また、「世界に翔く地域の信頼拠点」として、近年は特に「国際」化を重視した取り組みにも邁進しています。これらの「多様」「融合」「国際」は、大阪府立大学の基本理念を支える重要な視点として、歴史的な意味をもって位置付けられています。

2019（平成 31）年には、公立大学法人大阪市立大学との法人統合により、大阪府立大学は「公立大学法人大阪大阪府立大学」となりました。公立大学法人大阪では、重点目標の一つに「先端的・異分野融合型研究の推進による高度研究型大学の実現」を掲げていますが、これはまさに、これまでの大学の歴史が十全にふまえられています。その意味で、〈大阪府立〉の高等教育機関の集結によって、大阪府立大学の基本理念である「高度研究型大学～世界に翔く地域の信頼拠点～」が出来上がった、ということもできるでしょう。

折しも 2023（令和 5）年は、大阪府立大学にとって、創基 140 年という節目にあたります。2013（平成 22）年の創基 130 年記念事業からもちょうど 10 年を迎えることになり、これまでの大阪府立大学の歴史を、さまざまな〈大阪府立〉の高等教育機関の歴史として纏め上げることは、新たな大学へと継承していくためにも絶好の機会であると言えます。このことから、今後ますますの進展を企図して、『〈大阪府立〉大学創基 140 年記念事業』を発起する運びとなりました。大学のこれまでを振り返り、これからの未来を志向する目的から、〈大阪府立〉の大学 140 年の歩みについて、地域社会や産業との関りが可視化できる形での整備を目指した「アーカイブズ」、さらには、イノベーションエコシステム拠点の象徴として、今後の大学のあり方を牽引する存在である「イノベーションアカデミー」の構築を推進すべく、事業の展開を図ります。

多様性の実現が求められ、持続可能な開発目標（SDGs）が示される新たな時代の中で、大学はどのような存在であるべきなのか。このたび迎える創基 140 年を機に、まさしく温故知新の精神をもって、地域社会、ひいては国際社会の発展に寄与すべく、多くの研鑽を重ねて参る所存ですので、皆さまからの、本事業に対する幅広いご支援を、心よりお願い申し上げます。

令和 2 年 11 月 6 日
大阪府立大学
学長 辰巳砂 昌弘